

平成 22 年 5 月 21 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007 年 ～ 2010 年

課題番号：19530585

研究課題名（和文）表記活動と表記知識の初期発達とその連関過程の研究

研究課題名（英文）Early Development of Notational Activity and Notational Knowledge  
: Their Relational Analysis.

研究代表者

山形 恭子 (YAMAGATA KYOKO)

京都ノートルダム女子大学・心理学部・教授

研究者番号：20085963

研究代表者の専門分野：教育心理学・発達心理学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：表記活動・表記知識・初期発達・シンボルシステム・領域固有説・領域普遍説・  
読み書き能力・年少幼児

## 1. 研究計画の概要

本研究はこれまで実証研究が皆無である 4 歳以下の年少幼児を対象に、初期発達における文字・絵・数字・漢字などのシンボル表記活動と表記知識の連関過程を絵本知識課題と 2 肢選択分類課題ならびに文字・絵課題を用いて、読み書き能力やプリント理解との関係から検討することを目的としている。また、これらの研究結果を踏まえて、シンボル表記活動と表記知識の相互的な連関過程を発達的に解明し、シンボル表記発達に関する理論構築をおこなうことを目指すものである。

## 2. 研究の進捗状況

絵本知識課題と 2 肢選択分類課題、文字・絵課題に関する実証研究を 2 ～ 6 歳児を対象に実施し、表記知識と表記活動の発達および読み書き能力・プリント理解との関係を検討した。

(1) 絵本知識課題では絵本に関する手続き的知識、文字表記知識、絵本読みに関する知識、意味内容理解の 4 種の知識・理解に関して発達的に読字能力との関係を検討した。結果は絵本に関する手続き的知識と文字表記知識、意味内容理解は 2 歳児でも可能であったが、絵本読みに関する知識は年齢と読字能力の影響を受けて漸次的に発達することが示された。

(2) 2 肢選択分類課題を用いた表記知識の理解研究では 3 段階の発達が見出された。すなわち、形式的知覚的区別がスクリブル、文字用描線、絵において 3、4 歳で見られたが、

要素的知識と正書法的表記知識の理解は困難であった。要素的知識は 4 ～ 6 歳で漸次増加したが、正書法に関する表記知識は年長幼児においてもまだ理解されていなかった。

また、2 肢選択分類課題と産出課題の課題間比較では、産出課題の発達が早く、方法による発達の違いが見出された。産出課題では暗黙の表記知識が示されたのに対し、2 肢選択分類課題では明示的知識が要請されるためと解された。

(3) 本研究では絵提示の文字習得への効果を検討するために絵・文字提示条件と文字提示条件を比較検討した。結果は絵・文字提示条件が正再認数において多かった。また、読字能力の高低 2 群では高群の成績がよかった。以上の結果から絵提示は文字習得に関連する可能性が示唆された。

(4) プリントとしてひらがな文字以外に数字と漢字に関する表記知識の理解を 2 肢選択分類課題で検討した。ひらがな文字は 3 歳でスクリブル、絵、文字用描線との識別が可能であったが、数字と漢字では 4 歳にそれらの識別が可能になった。結果から、ひらがな文字と数字、漢字の理解に発達の差が見出され、また、相関分析からひらがな文字習得能力が数字・漢字表記理解に影響することが示された。

## 3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

プリント理解に関する研究としてひらがな文字・数字・漢字についてはすでに実証研究をおこなったが、年少児を対象とする多様

なプリント理解研究に関してはまだ検討していない。今後、年少幼児を対象にこれらの理解ならびに表記知識を探究する研究をおこなう必要がある。

#### 4. 今後の研究の推進方策

今後の研究としては当初の研究計画にしたがって年少幼児を対象に日常生活の中で見られる多様なプリントに関する理解の発達について調べる方向での研究が求められる。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 山形恭子、シンボル表象活動と知識の初期発達 — 描画と文字の産出課題 —、プシュケー(京都ノートルダム女子大学心理学部・大学院心理学研究科 研究紀要)、7、Pp. 89-100、2008、査読なし
- ② Yamagata, K.、Differential emergence of representational systems: Drawings, letters, and numerals、*Cognitive Development*、22、Pp. 244-257、2007、査読有り

[学会発表] (計 8 件)

- ① 山形恭子、表記知識の諸特徴に関する理解の発達(2) — 年少児における分析 —、日本発達心理学会第 19 回大会発表論文集、P. 509、大阪国際会議場、2008. 3. 20、査読なし
- ② Yamagata, K.、Understanding print and procedural knowledge development during picture book reading、The 2007 Asian Reading Conference in Tokyo、Pp. 41-42、National Olympics Memorial Youth Center、2007. 8. 6、査読有り
- ③ Yamagata, K.、Emergence of representational drawing in 1- to 3-year-old children、12<sup>th</sup> Biennial EARLI (European Association for

Research on Learning and Instruction) Conference、Symposium in Budapest、「Representational drawing in childhood: Development, context and instruction」、Abstracts、P. 201、2007.  
8. 30、査読有り

[図書] (計 1 件)

- ① 日本児童研究所(編)、金子書房、児童心理学の進歩 2009 年版、2009、「表記活動の発達」Pp. 81-110、査読有り